



令和2年度 「雇用促進・就労定着 プロジェクト」 学習会 Vol.1

去る8月18日、令和2年度「雇用促進・就労定着プロジェクト」学習会 Vol.1 が実施されました。この学習会は、プロジェクトメンバー自身が障がい者雇用に関する理解や知識を深め、力をつけていくことを目的とした、今年度の柱となる取り組みの1つです。1回目となる今回は、「雇用のプロセスから就労定着について」というテーマで、障がい者雇用の一連の流れや、それぞれのプロセスごとの課題について学ぶ内容で行いました。

話題提供として当センターより、初めて障がい者雇用を検討する企業からご相談を受けた際にお伝えしているプロセスの一例について紹介を行いました。雇用をする際には、「障がい特性や障がい者についての理解を深める」「作業の切り出しと障がい特性のマッチング」「職場環境や雇用管理体制を整備する」「応募、採用」「職場定着の為の雇用管理と定着支援」と沢山のポイントがあり、雇用までの準備期間や企業の受け入れ態勢により雇用のプロセスは様々です。

そのプロセスに沿って丁寧に雇用の準備を整えた事例として、帯広ガス株式会社 総務課 課長の広瀬さんより発表いただきました。例示したプロセス毎に心がけたことや苦労した点など、当時のエピソードをまじえてわかりやすく紹介していただき、雇用して数年が経過した現在でも、本人の役割ややりがい、帰属意識について試行錯誤しながら取り組んでいるというお話でした。



後半は3グループに分かれ、各企業の障がい者雇用のプロセスの情報共有と課題についての意見交換を実施しました。雇用前に支援機関と連携して準備を進めたり、雇用前に実習を行いアセスメントをしたりと、各企業の取り組みには独自性と共通点がありました。雇用の経験を重ねている企業であっても、雇用する部署が変われば社員の理解を促すには時間がかかり、何度も繰り返して伝える必要があるということでした。また、本人のキャラクターや障がい特性の理解が現場で深まらなければ仕事の切り出しが広がらないとし、職場環境を整えることが職場定着につながる重要な要素であるということが共通の認識でした。

今回は、プロジェクト内の研修だからこそ、お互いが本音で語り合うことができたのではと感じます。障がい者雇用は順風満帆に進むことばかりではありません。職場での障がい者雇用の最前線に立ち、現場で対応する社員を支える立場となるプロジェクトメンバーのご苦労は計り知れないと思います。そのような方たちがお互いをたたえ合い、元気をもらえる場所があるからこそ、日々の業務に挑んでいけるのかもしれません。ふとした瞬間に「会社で働けて良かった！！」と言われた時の喜びがあるから頑張れると言った、励みになる声も聞かれました。今年度のプロジェクトは、自社の障がい者雇用への理解促進を図ることが目的ではありますが、プロジェクトメンバーの皆さんが前に進める活力を与え合うことがこの勉強会のもう一つのとても大切な意義であると感じています。

次回の学習会は10月を予定しています。

企業の皆さんの抱える課題や熱い思いを、今後もお伝えしていきます。